

【なかなかの推理力】

朝、頻繁にゴミを拾ってくる子どもが何人かいます。

誰が落としているのか、皆目見当はつかないわけですが、ある日、そのうちの一人とこんな会話をいたしました。



わたし: 今日もゴミをひろってきたの?

Aくん: うん。今日はたいいよう。

わたし: だれが、こんなにすてるのかなあ。

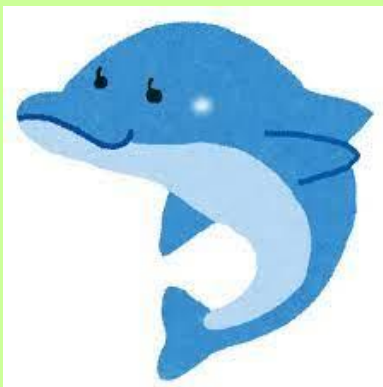
Aくん: すてるの、いつも同じ人だと思っただよね。

わたし: なんで?

Aくん: ゴみのなかみ。いつも、しょっぱいのと、あまいのが入っているんだよね。いつもそんな組み合わせなんだよね。

わたし: なるほど。Aくん、するどいなあ。

とまあ、こんな会話をしたわけですが、このゴミを落としているのは、たぶん、いや絶対、小学生ではないですよ。ゴミの落とし主までに思いを馳せる小学生に申し訳ない気持ちでいっぱいになります(しっかりしよう、おとな!!)



みなさんは、イルカを触ったことはありますか? もしあったら、その感覚をどのように表現しますか?

お休み明けの月曜日。いつものように横断歩道に立っていると、Bくんがこのお休みにイルカにさわった話をしてくれました。

私が「どんな感じだった?」と尋ねると、

「なすみたい」と一言。

「なす!?!」

どうやらBくんが感じたイルカの感触は、なすを触ったときの感触だったようです。

Bくんは自分の経験知の中から、この言葉をセレクトしてくれたので、たぶん、間違いなくBくんにとって「イルカは、なすのような感触」であったと思います。

しかし、いつもながら子どもたちの表現の豊かさにジェラシーを感じる私であります。

イルカからなすへ発想を飛ばすこと。今の私には、到底思いつきません。